兵庫消防

発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人　関山　巧
定価　1部44円
題字　井戸知事

消えるまで
ゆっくり火の元
にらめっ子

「ひょうご消防のつどい二〇〇九」in 豊岡

平成二一年一〇月一八日（日）に県下消防団・消防本部の幹部約八〇〇名が豊岡市民会館文化ホールに集結！

今年度の「つどい」では、県下の消防本部・消防団の幹部が共に集い、長年、消防業務に従事してきた消防職員・消防団員の功績を讃える表彰を第一部に、豊岡市豊岡消防団によるアトラクションを第二部に、そして第三部では財団法人建設工学研究所常務理事・神戸大学名誉教授である沖村　孝氏による講演が行われました。

つどい当日は、豊岡市豊岡消防団の西垣団長の開会宣言に始まり、国歌吹奏、黙祷につづき、関山県協会長の挨拶、知事（代理吉本副知事）式辞、中貝豊岡市長の歓迎のことばの後、吉本副知事、関山会長から各団体、代表受領者に表彰が手渡されました。伝達後、来賓の方々からの祝辞に続き、受賞者代表としてたつの市消防団の堀川副団長からの謝辞をもって、第一部は終了しました。

ひょうご消防のつどい2009

表彰状の伝達

第二部では、開催地である豊岡市豊岡消防団によるアトラクションが行われました。

まず始めに豊岡消防団第一〇分団による「木遣り」が、続いて第九分団による「太鼓」が、最後に第八分団による「梯子乗り」が、迫力あるアトラクションで参加者の目を釘付けにしました。

第三部では、沖村　孝氏を講師に迎え「豪雨災害のリスク認知と避難行動について」の演題で講演をいただきました。豪雨災害時に発生する斜面崩壊の研究に取り組んでおられる沖村氏の講演は、消防防災に携わる者にとって非常に興味深く、また、先日の大規模な水害による被害を被った本県において、大変意義のある講演となりました。

最後は足立副会長の閉会の言葉で「ひょうごのつどい二〇〇九」は幕を閉じました。

今年度の表彰の栄に輝いた団体・個人は次のとおりです。

豊岡市豊岡消防団によるアトラクション

兵庫県知事表彰

○表彰旗
　豊岡市竹野消防団
○竿頭綬
　尼崎市消防団
　豊岡市城崎消防団
　赤穂市消防団
○功労賞
　消防団員　四八名
　消防吏員　七一名
○永年勤続功労賞
　消防団員　一一〇名
　消防吏員　一八八名
○表彰状　一団体

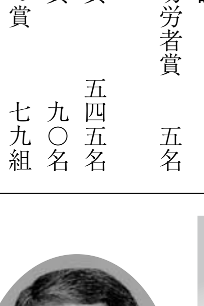
兵庫県知事感謝

○永年勤続功労者賞　五名
○家族の賞
　消防団員　五四五名
　消防吏員　九〇名
○親子二代の賞　七九組
○消防協力者賞
　個人の部　三名
　事業所の部　四団体

兵庫県消防協会長表彰

○表彰旗
　淡路市消防団
○竿頭綬
　神戸市中央消防団
　相生市消防団
　加東市消防団
○功績章　一三八名
○精積章　二二八名
○勤続章　四〇九名
○精勤章　四五〇名
○表彰状　一名
○家族の賞
　三〇年以上　一四九名
　四〇年以上　一六名
　五〇年以上　四名

吉本副知事 県消防協会の副総裁へ就任



齋藤富雄前副知事の退任に伴い、その後任に前教育長の吉本知之氏が、平成二一年九月二六日付けで兵庫県副知事に就任されました。

これにより、吉本副知事は、県消防協会の副総裁に就任していただくことになりました。

吉本副知事は、就任早々から「ひょうご消防のつどい二〇〇九」にも出席され、知事表彰を代表受領者に手渡されました。

吉本副知事には、消防業務をはじめとする地域防災の発展をご指導いただくことが期待されます。

代表受領者に表彰を手渡される吉本副知事

「感動をありがとう！」

第十九回全国女性消防隊操法大会に参加して

赤穂市女性消防隊
隊長　神崎　直美

一〇月二二日、澄み切った秋空の下、第一九回全国女性消防操法大会が横浜市消防訓練場において盛大に執り行われ、赤穂市女性消防隊〝サクラ〟は兵庫県を代表して出場しました。

この大会に向けて、一月から始まった長い長い訓練の日々も今となっては一瞬の出来事だったように感じます。悲しかったこと、辛く苦しかったこともありました。その度に皆で励まし合い、そして何事にも代えられない「一生の思い出」ができたことは言うまでもありません。

〝サクラ〟は生来、楽天家の集まりで、二度とないチャンスを「ダメ元でやってみようよ」と軽いのりで言ったものの、頭でわかっていても体が動かない辛さ、先が思いやられました。

止めどなく汗が吹き出し、息も上がり足も腰も張る。頭の中は指導員の声がこだまし「気持ちは一つやで」と心でつぶやき再び集合線に整列する。互いに焦りと不安が交差するが「大丈夫、もう一回」とまた集合線に並んだ日々。

一〇月三日、感激の壮行会。まずは観衆を前に展示操法を披露し、大きな拍手と歓声に包まれました。たくさんの方々から励ましのお言葉と熱い思いと一緒に横浜に行きます。そして、精いっぱい頑張ってきますと決意を披瀝しました。

いよいよ大会当日。今まで培ってきた力を出し切れば表彰台も夢ではないと本番前に誓い合った〝サクラ〟。

しかし、晴れの大舞台の緊張と重圧に思うようなタイムが出ず、競技を終えて最初に出た言葉は「悔しい…」のひと言。

止めどなく熱い熱い涙が溢れ、訓練の日々が走馬灯のように駆け巡ります。皆に励まされ、勇気づけられて十名の〝サクラ〟は感動の全国大会を終えることができました。

最後になりますが、素人の私たちがここまで来れたのも、ご指導、応援頂いたすべての方々のお陰と感謝し、この一年間の経験を生かして「地域防災」に微力ながら恩返しができればと思います。

ありがとうございました。

赤穂市女性消防隊“サクラ”

大会の様子

「地防地災」～地域で防ぐ地域の災害～

姫路市姫路西消防団長　梅元　義昭

姫路西消防団は、昭和四四年の一市一団制から一市四団制への改編に伴い、現在の姫路西消防署と同じ管轄区域を有する一二分団、一、〇〇六名の消防団として誕生し、平成一〇年四月からは、現在の一六分団、五五七名の組織として活動しています。

当消防団は伝統的に消防ポンプ操法に力を入れるなど団員の技術の向上を図っており、昨年度には、当消防団の統一スローガン「地防地災」を掲げ、日々地域に密着した活動を行っています。

「地防地災」とは、「自らの地域は、自らで守る」という消防団の郷土愛護精神をさらに掘り下げ、自らの地域の災害の発生を未然に防ぎ、災害が発生した場合は被害を最小限で食い止め地域住民の安全安心を最大限確保しようとの思いが込められております。

その一環として、梅雨時期においては従来水防工法等による団員による水害対策訓練を行ってましたが、昨年度からは、住民も参加した災害図上演習訓練（DIG）を実施しています。自分達の住むまちだからこそDIGに参加する住民も真剣に取り組み、それぞれが持っている情報、経験、対応方法などが共通の認識として共有され、訓練の目的が十分に果たせたのではないかと考えています。

また、地域で開催されている心肺蘇生法、AEDの使用方法などの救急講習会にも指導員として積極的に参加し、応急救護・手当などの知識、技術を地域住民へ伝え、救命率の向上を図っています。

一方、職員や団員相互の親睦・連携を深めるためのスポーツ大会の開催、全国的に懸案事項である女性消防団員の議論など、消防団の活性化対策を真剣に取り組んでいます。

我々は、被害の予防や拡大防止など、地域の安心・安全を担う消防団として、地域情報を十分に把握し、地域の防火防災リーダーとしてあらゆる面から地域に密着した活動をしていくことを目標に日々勤しんでいます。

これこそが統一スローガンである「地防地災」の精神であり、地域に根付いた消防団としての使命であると自負し、今後も邁進していく所存であります。

消防団今昔 ㊸

「消防団今昔」

南あわじ市消防団　選任副団長　片山　恭宏

南あわじ市消防団は、旧三原郡四町（緑町、西淡町、三原町、南淡町）が平成十七年一月一一日に合併、それに伴い消防団も合併し誕生しました。

組織としましては、団員総数二、一九〇名で、団長（一名）以下、団長を補佐する選任副団長（二名）、各方面の隊長・副隊長（八名）、各地区を担当する地区選任分団長二一名の副団長計三一名、二一地区五九分団と女性分団で組織されており、ポンプ自動車二四台、小型動力ポンプ付積載車八三台を配し、有事の際の出動に備えています。

私は、昭和五九年に緑町消防団に入団し、常に消防の重要性を深く認識し、自覚と責任感と消防人としての誇りを胸に努めてまいりました。その間多くの火災や風水害に出動しましたが、民家火災での消火活動は勿論のこと、類焼をいかに防ぐか常に気を使いました。

また、山林火災の時は、前も後ろも飛び火で囲まれ、必死で逃げた事などの思い出もあります。火災での消火作業では、風、地理、水源、交通など、緊急の判断が指揮命令を行う上でいかに大切かを学びました。

また、生涯忘れることのできないのが阪神・淡路大震災とサンライズ淡路での山林火災です。一週間近く出動が長引き、仕事や生活に大変影響しました。

この災害で得た貴重な体験、教訓、反省点を生かし、「自分たちの町は自分たちで守る」を合い言葉に、地域住民が安全で安心して暮らせる町づくりに取り組み、住民の方々に一層信頼され、愛される消防団になるよう日々努力を続けてまいります。

さて、話は変わりますが、現在は消防団員のなり手が少なくなりました。現在も、団員の確保は容易ではありません。少子化、団員のサラリーマン化による昼間の出動人員の不足、また勤務先の夜勤により夜間でも不在の団員がおります。

様々な問題があると思いますが、消防団の活動をもっと広く正確に理解していただきたいです。南あわじ市の消防団員の報酬は、一団員あたり年間八、〇〇〇円です。この崇高な活動をより多くの方に認識していただきたいと思います。

最後になりましたが、「団員のため住民のために」これは、消防活動での私の信条です。誠意と勇気をもってこれからも活動していきたいと思っています。

地区通信

「消防署・消防団合同出動訓練」

芦屋市支部

平成二一年八月一六日（日）及び平成二一年九月六日（日）の二回にわたり、芦屋市消防団本部のある新庁舎を利用し、消防署・消防団合同出動訓練を実施しました。

この訓練は、消防署と消防団が合同で出動訓練を行うことで、消防署と消防団の連携を密にし、現場指揮・伝達・無線運用の習熟を図ることを目的に行われました。

訓練想定は、消防本部庁舎を鉄筋コンクリート造・地下一階・地上三階建ての事業所とし、地下の倉庫部分から出火、倉庫内に要救助者一名がいるものとして開始されました。

まず消防団にあっては、詰所招集後、指令システムからの出動指令書送信により災害地点へ出動。先着の団車両は防火水槽採水口に部署し、消防署車両へ補水。後着の団車両も防火水槽採水口に部署後、ホースライン延長後二口放水を実施しました。また、消防署からの要請により、排煙機や照明等の必要資機材の搬送や、要救助者救出後、救急車内までの搬送に必要な遮蔽幕（ブルーシート）の準備なども実施しました。

訓練終了後の反省会では、補水を実施した消防団と消防署機関員との連携の難しさや、伝達・無線運用の習熟、各分団の現場指揮者の必要性、要救助者を隠すブルーシートでの遮蔽作業の戸惑い、体力不足の痛感など、さまざまな反省や意見が出ました。

このような訓練に初めて参加した新人団員からは、消防団活動の大変さや、難しさを感じる反面、今後の消防団活動に対しての重要さややりがいを感じ、消防団員としての意識が向上したという声もありました。

また、この反省会は消防署から消防団への意見のみではなく、消防団から消防署への要望も多く出され、こういった意見の交換により、消防署と消防団の「顔の見える関係作り」ができ、この関係は実際の現場においても生かされると思います。

芦屋市消防団では平成二一年一〇月一日から組織改正により、消防団本部の人員を三名から七名に増やしました。

これは、消防団本部の運営機能及び指揮命令系統の充実を図り、災害時における消防団活動の安全管理体制を確立する事を目的に改正されたものです。

現場で指揮をとれる役職を増やす事で、消防団がより安全に現場活動を実施し、事故防止を行うための体制です。

今後も定期的に、このような訓練を実施する事で、よりスムーズな現場指揮の連携を強化し、現場での安全管理を徹底したうえで、芦屋市民の安心・安全に大きく寄与する「消防団」を目指し、地域防災の要となるよう努めてまいります。

指揮者によって、各団員の活動を確認

庁舎屋上から撮影した、訓練の様子

MUSICAL「地震カミナリ火事オヤジ」第四〇〇回記念公演

地域の消防団活動をテーマとしたミュージカル「地震カミナリ火事オヤジ」が平成二一年一〇月五日（月）に神戸文化ホールにおいて公演されました。平成一八年に「劇団ふるさときゃらばん」によりスタートしたこのミュージカルは、全国各地で公演が行われ、今回が四〇〇回記念公演。いよいよ千秋楽を迎えました。

このミュージカルは、消防団の地域における重要性への理解促進に加えて、地域コミュニティや人と人とのつながりの大切さを伝えるものでした。

また、女性消防団員の採用など今後の消防団運営のあり方を考えるよい機会となりました。

ミュージカルの様子

わがまちの団長さん ⑯3

「団長はアイデアマン！」

豊岡市豊岡消防団
西垣豪太郎　団長

豊岡市のめざすまちの将来像は、「コウノトリ悠然と舞うふるさと」です。コウノトリをシンボルとし、世界の人々から尊敬され、尊重される「小さな世界都市」をめざしています。

西垣団長は、昭和三五年一月に豊岡市消防団に入団、平成一四年四月からは団長として活躍されており、来年一月には団歴が五〇年と節目の年を迎えられます。

人生の半分以上を消防団員として活躍されて来られましたので、消防への想いや卓越した知識には、本当に頭が下がります。

西垣団長は、分団長時代に後輩に優秀な人材を得ることができ、将来の団、分団のことを考え、後進に道を譲ろうと、当時の団長に何度も辞表を出されたそうですが、頑として受け付けてもらえなかった、とのエピソードを聞いたことがあります。自らのポストより、他の人のことを念頭におかれている表れであり、現在でも団員の尊敬を集める理由ではないかと思います。

また、消防団活動もさることながら、三〇数年にわたって少年補導員を務められており、消防団活動以外にも地域社会に多大なる貢献をされております。

そんな卓越した知識と幅広い人脈をお持ちの団長ですので、消防団の様々な事業に対して、積極的な姿勢で取り組まれております。

その一つが、「副団長業務分担制」です。現在、四人の副団長が団長を支えておられますが、それぞれ所管の分団を監督させることはもちろんですが、研修・庶務・訓練・自主防災組織との連携等、それぞれを副団長へ担当させ、副団長の資質・能力の向上に力を注がれています。

さらに、消防団の中に団事務局が介入しない「豊岡消防団活動推進委員会」を発足され、水防工法のスペシャリストの養成、ボート部隊の編成、災害時要援護者対策の一環として手話の修得等、数多くの事業を推進されています。このような活動を通じ、消防団活動が活発化し、豊岡消防団の消防・防災力は確実に向上しているところです。

西垣団長が就任されてから約八年になろうとしています。その間、豊岡市豊岡消防団の活動は、毎年、着実に活性化しております。活性化し過ぎて、副団長・団事務局は、日々、自転車操業の状況ですが。

これからは、飲酒量を少し減らしていただき、健康には十分ご留意いただき、強力過ぎるリーダーシップをさらに発揮され、豊岡市、また豊岡市豊岡消防団の益々の発展が期待されるところです。

地区通信

日常（くらし）を守る

豊岡市出石消防団

大地を潤し、多くの命を育む一方で、台風や豪雨、旱魃などにより、多くの苦難を強いる気象現象。大陸を形成し、幾多の資源や温泉などの恩恵をもたらす一方で、地震や噴火の原因でもある地殻運動。地球にとっては、些細な『変化』に過ぎませんが、制御する術を持たない人間にとっては大きな脅威です。

そして、発生時間と場所の正確な予測ができず、危機意識の持続が難しいため、《災害は忘れた頃に…。》と諌められるとおり、慢心して備えを怠ると、被害を拡大させてしまうことが少なくありません。

このため、我々豊岡市出石消防団では、新入団員・幹部団員・水防・地域防災の各訓練、無線・普通救命・ロープ結束などの講習会、春と秋の火災予防パレード、二三年目を迎えた消防操法大会など、各事業の継続と内容の拡充に努めており、先年の水害に際する支援への謝意から始めた集団献血も、五年目を迎えました。

また、分団ごとには、第一から第一〇の各分団による、毎月二回の機関点検、出水期・渇水期などの啓発活動、除雪を含めた状況に応じての消防水利の点検、行事に際する警備、自主防災組織による訓練への支援や、本部分団と女性消防団による、週一回の広報活動などを行なっており、県の水防技術講習会への参加、消防学校中級幹部科への入校も毎年行なっています。

このため、団員への負担は少なくありませんが、指揮の高揚を図る中で、消防防災活動の担い手としての自覚の醸成に努めており、過日の佐用町への災害救援活動では、当地の水害に際する苦難と、多方面からの暖かい支援を思い起こした一方で、自然の驚異を再認識させられ、地域の日常を守る『力』となれるよう、団員一丸となって訓練に努める決意を新たにしたところです。

なお、当団の団員定数は、三八〇人（現員三七六人）で、副団長は三人制です。分団の機構及び装備は、指令車の配備を受け本団を補佐して通信や交通整理にあたる本部分団、消防ポンプ車の配備を受け出石地域の全域を出動区域とする特設分団（第一分団から第三分団）、積載車と小型ポンプの配備を受け担当地域及び隣接地域を出動区域とする普通分団（第四分団から第一〇分団）の一一分団と、配備車両はなく本部分団と協同しての広報活動を主務とする女性消防団（平成五年一〇月設置）です。

女性消防団：制服更新

地域防災訓練：一斉放水

われら若手消防団員 〈23〉

「あの頼もしい姿を目指して」

宝塚市消防団 波豆分団
福永　和佳人

「消防団なんて面倒そうなもの。なんで断らなかったんだ?」今でもたまに、友人や職場の同僚にはそんな事を聞かれます。

しかし、私自身は消防団に入団する事は当然と思っていたので、断るなんて選択肢は考えもつかず、むしろ団員として活動する事にささやかな誇りを持っています。

それは幼い頃より父が、地域の方々が、出動のサイレンが鳴り響けば颯爽と飛び出していく姿を見てきたからなのかもしれません。

入団当初は、うまくやっていけるのかという不安はありました。仕事の都合で自宅には寝に帰るだけのような状態で、地域の事もロクに知らなかったからです。

しかし、そんな心配は杞憂に終わりました。経験豊富な先輩達に暖かく迎え入れられ、手取り足取り指導していただいた結果、入団一年目で一番員として出動した市内の操法競技会では、二一年ぶりの優勝という結果に接する事ができました。

気付けば入団してから丸四年になろうとしていますが、私は未だ火災出動の経験もなく、いざという時には機材の取り扱いも満足に行えないのではないかという未熟者です。

幼い頃に憧れた、あの頼もしい姿になるには、まだまだ鍛練が必要。

先輩方、今後も御指導よろしくお願いします!!

「地域における消防団の役割」

宍粟市消防団 一宮支団
第五分団 能倉部
岸根　潤

私は平成一七年四月に先輩から声を掛けていただき宍粟市消防団一宮支団第五分団能倉（よくら）部に入団いたしました。消防団に入団した当初は、責任も重く訓練も厳しいため不安を感じましたが、先輩の方々の厳しいながらも丁寧な指導のおかげで未熟ながらも消防団の一員として地域のために活動することができるようになりました。

また、火災現場を幾度か目の当たりにするにつれ、地域においての消防団の重要性を実感することになりました。私の住んでいる宍粟市一宮町は、面積のほとんどを山林が占めています。集落が点在しており、消防署の分署のある中心部から離れた集落になると車で三〇分以上かかる為、火災が発生した場合、その被害が最小限に食いとどめられるかどうかは地元の消防団にかかっているため、各部とも平時より機械器具の点検はもとより、水源地調査を欠かした事はありません。

そして、先日の兵庫県北西部に甚大な被害をもたらした台風第九号災害においては、宍粟市内では幸い人命に被害はありませんでしたが、家屋・道路・農地等で甚大な被害を受け、罹災した家の土砂の撤去・後片付けなど、災害当日だけでなく後日も進んで復旧活動にそれぞれ貢献されていました。地域のつながりが希薄になっている現代において、自主的に地域の復旧に貢献する消防団の活動は、地域のつながりも守っていると再確認しました。

まだまだ、力の及ばない私ですがこれからも地域のために役立てるよう努めていきたいと思います。

北から南から

「わがまち何でも自慢！」～住むのにちょうどいいまち～ 赤穂

赤穂市支部

〝忠臣蔵のふるさと〟〝塩のまち〟として知られる赤穂市は、四季折々の姿を映し出す豊かな自然と、恵まれた医療環境のほか、福祉関連施設や文化、スポーツ施設も充実し、公園や緑地の面積も広く、全国でもトップクラスの住みやすさが自慢です。

12月14日義士祭（義士行列）

○水道料金ランキング（全国第一位）

名水百選の千種川は水量も豊かで、赤穂市水道事業の水道料金は全国安値ランキングで第一位にランクされました。

【一ヶ月に一般家庭二〇立方メートル使用時、メーター代込み（円）】

☆一位　赤穂市　八二九円

☆二位　伊豆の国市大仁地区（静岡）　八八二円

☆三位　富士吉田市（山梨）　一、〇二二円

【毎日新聞　平成十八年五月一四日の記事】

○良い病院ランキング（全国第八位）

日本医療機能評価機構の認定病院四二九ヶ所の評点偏差値ランキングで、赤穂市民病院が良い病院全国第八位にランクされました。【日経メディカル二〇〇四年五月号】

○住みよさランキング

「安心度」「利便度」「快適度」など一六の指標により評価される住みよさランキングで兵庫県第七位、近畿では第一九位にランクされました。

【東洋経済新聞社「都市データパック二〇〇七年版」より】

○全国優良都市ランキング

全国七一八市区の中、住宅インフラの部門で近畿第一位、全国では第三位にランクをされました。

【「全国優良都市ランキング二〇〇五～〇六」日本経済新聞日経産業消費研究所調査より】

○日本の低山ランキング

市の南部、千種川の河口に高さ一九mの唐船（からせん）山があります。この唐船山は、日本の低山ベスト二〇（全国第一九位）に入っており、もちろん兵庫県の最低峰です。ちなみに全国第一位は大阪府の天保山（五m）です。

○シルバー人材センターへの入会率ランキング

全国の人口五万～一〇万都市でシルバー人材センターへの粗入会率（対六十歳以上人口比）は、全国二八七センター中第五位、兵庫県下三四センター中第一位です。

【平成一八年度末現在】

○NHK大河ドラマ「赤穂浪士」が歴代最高視聴率を記録

赤穂といえばやはり赤穂浪士。

一九六四年（昭和三九年）、当時の大映の看板スター長谷川一夫さんが大石内蔵助に扮したNHK大河ドラマの二作目「赤穂浪士」は平均視聴率三〇％を超え、討ち入りの放送時は何と五三％という史上最高視聴率記録を打ち立てました。この記録は未だに破られていません。

この他、「わがまち自慢」は紹介しきれませんが、温暖で住みやすい気候と、元禄ロマンの香り漂うたたずまいを肌で感じていただき、「水とみどりにつつまれた歴史文化交流都市」を目指して発展する～住むのにちょうどいいまち赤穂～へ、ぜひ一度おいでください。

瀬戸内 坂越 牡蠣棚

赤穂城跡公園

日本消防協会制作「消防団員のための健康促進DVD」

撮影協力　神戸市支部

この度、日本消防協会において、消防団員の健康管理のあり方について調査研究し、団員の健康増進の教材としてDVD化したものを、全国の消防団へ配布することとなりました。このDVD制作にあたって、本県消防協会神戸市支部が撮影協力することとなり、平成二一年一〇月四日（日）神戸市消防学校にて「消防団健康教室」が開催されました。

講義の様子

健康教室の講師は、神戸市消防局警防課消防団係長他谷和巳さん。教室の内容は二部構成で、一部は講義、二部はグランドでの実技が行われました。講義では、正しいトレーニング法や応急処置等。実技では、ストレッチや正しい歩き方、走り方の指導を受けました。出席された団員の皆さんは、日常的にマラソンやバレーボールなどのスポーツに取り組んでいる方が多く、講義後の質問も活発に行われていました。講義の中で、「健康やトレーニングは貯金出来るものではありません。日ごろの努力の積み重ねです。」という言葉に、団員の方々は熱心に聞き入っていました。

健康教室終了後、参加された団員の方々は一様に満足された様子で、「普段の自己流トレーニングの問題点や改善点が分かりました。団員同士和気あいあいと学ぶ機会を持つことが出来、良かった。」とおっしゃっていました。

実技の様子

この度の健康教室の模様が収録されたDVDは、今年度末には兵庫県下の各支部へ送付される予定となっています。

どうぞお楽しみに。

編集後記

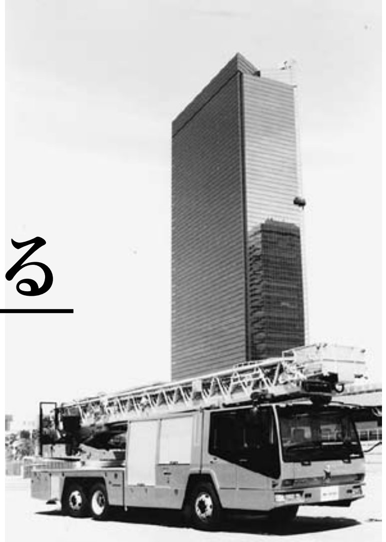
だんだんと肌寒くなってまいりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。また、秋は地域の行事が多く皆さまもお忙しくされていることと思います。

今月号へも各地区、各支部から多数寄稿していただきました。ありがとうございました。

空気も乾燥し始め、ちょっとした不注意から取り返しのつかないことにもなりかねません。火を消す仕事の消防団から火を出すことはあってはなりません。火の元の使用には十分注意したいものです。

美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する
モリタです。



株式会社モリタ

本社　〒544-0003大阪市生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119　FAX06(6754)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山

消防団服

甲種　日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
乙種　刺子・木綿
ハッピ・ズボン・腹掛・革バンド
附属品一式

キンパイホース　兵庫県特約店

株式会社　三浦消防
姫路市竜野町１丁目１番地
電話（姫路 0792）９２－０４４７
９８－８６６３